

令和7年度鳥取市総合教育会議（第1回）会議録

- 1 日 時 令和7年8月21日（木） 10時00分 から
- 2 場 所 鳥取市役所本庁舎 7階 第2委員会室
- 3 出席者 〔構成員〕
- 市長：深澤 義彦
教育長：河井 登志夫
教育長職務代理者：藤井 喜臣
教育委員：前田 哲雄
教育委員：谷口 なおこ
教育委員：中井 英子
- 〔市長部局〕
- 副市長：羽場 恭一
総務部長：塩谷 範夫
企画推進部政策企画課地方創生推進室長 西田 茂樹
- 〔教育委員会事務局〕
- 副教育長：徳高 雄一郎
次長兼教育総務課長：山名 常裕
次長兼学校教育課長：浅見 康陽
次長兼総合教育センター所長：狩野 司
校区審議室長：岡部 孝志
学校保健給食課長：蔵増 彩
生涯学習・スポーツ課長：浜田 哲弘
文化財課長：佐々木 孝文
中央図書館長：中島 泉
学校教育課参事（こども発達支援センター所長）：平戸 由美
教育総務課長補佐：前田 英樹
- 〔傍聴者〕 2名

4 会議次第

次期鳥取市の教育等の振興に関する大綱、鳥取市教育振興基本計画の骨子案について

○第12次鳥取市総合計画の策定経過について

○教育振興基本計画目標値の実績について

○次期大綱・基本計画の骨子案について

5 会議概要

1 開 会 10時00分

開会（副教育長）

2 市長あいさつ

教育委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、本年度第1回となります総合教育会議にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。また教育委員の皆様におかれましては、日頃より本市の教育の充実と発展に多大なるご尽力を賜っておりますことに、改めまして心より感謝申し上げます。

大変暑い日が続いております、今年は6月27日に梅雨明けということで、6月に梅雨明けというのは今までなかったことではないかと思えます。平年より22日早い梅雨明けで、その後ずっと暑い日が続いております。近年、異常気象の関係もあって夏は非常に猛暑が続くといった状況があります。そういった中で小中学校の体育館の空調設備について、まずは浜坂小学校からスタートをしていこうと、導入に向けて今取り組んでいこうとしているところであります。

しかしながらこの空調の導入といいますか、国の支援の対象が「指定避難所等」であることが要件になっているということで、鳥取市には市立の小中義務教育学校が56校ありますが、その中でこの要件に該当するのは13校しかありません。今月8日に文科省に行きまして、何とかその辺を緩和してほしいとお願いしたら逆に「指定避難所に指定すればいいんじゃないか」と言われて、ちょっと話がかみ合わないと感じましたが引き続き予算の総額の確保や要件緩和等をお願いして参りたいと思っております。災害が発生した場合、学校の体育館を避難所として活用することになりますし、何よりも児童生徒の皆さんが快適に過ごしていくうえで非常に重要な取り組みになると思っておりますので、しっかりと進めてまいりたいと思っております。これからも教育委員の皆様としっかり連携をさせていただきながら、よりよい教育環境の充実に努めてまいりたいと考えております。

今日は次期鳥取市の教育等の振興に関する大綱、また教育振興基本計画の骨子案について、ご審議を賜りたいと考えております。また、鳥取市の第12次総合計画についても今策定中でありまして、この総合計画との整合を図りながら取り組んでいくことが必要でありますので、本日は担当の室長の方から概要について現在の状況説明をいただいて、協議の方を進めていただきたいと思っております。これからも教育の充実やスポーツの振興を通じて、生涯にわたって市民の皆様が生き生きと活躍できる、そのようなまちづくりを進めてまいりたいと考えておりますのでよろしくお祈りを申し上げます。

それではご審議の程よろしくお祈り申し上げまして、開会にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお祈り申し上げます。

3 議題

(1) 第12次鳥取市総合計画の策定経過について

政策企画課地方創生推進室長（資料に基づき説明する。）

【質疑】

(藤井委員)

すいません、教育振興計画と関係ない話をさせてもらってもいいですか。

非常に網羅的に計画立をてられているので、正直私はこれでいいとは思うんですけど、一つはやっぱり今、人口減少とか少子高齢化の話で、中心都市が頑張らないと人口減少とか、県外への人口流出が止められないかなと思います。おそらく、周辺部はさらに人口減少が進んでいくと思うので、ぜひその辺りについて対策をお願いしたいなと思いました。

また、私自身福祉の仕事をしている関係でお願いがあります。地方地域福祉のあり方について社会福祉協議会が頑張っているのですが、非常に予算措置のあり方をちょっと抜本的に考え直さないとなかなかつらいかなと思っておるんです。というのは社会福祉協議会の財源というのが、基本的に町内会費から社会福祉協議会の負担金が出ていて、それが集まってきて大層を占めているんですけど、まず人が減っているし、町内会に入る人も減っていくということですので鳥取市の社会福祉協議会がどう言われるかよくわからないんですけど、一つその辺を福祉部局と一緒に考えていただけたらなと思います。鳥取市の社会福祉協議会潤沢にあるというふうに言われたいとは思いますが本当に減って行ってまして、どこの社協も非常に厳しい状況で積立金を取り崩してやってみるみたいところがありますので、ちょっと行政が出す範囲が今よりもちょっと踏み出していただかないといけないのかなと思う部分があります。

すいません。関係ない要望みたいな話になりましたけど、よろしく願いいたします。市民コメントとして扱ってもらえたらと思います。

(深澤市長)

はい、ありがとうございます。いずれも非常に重要なポイントだと思います。人口減少、少子高齢化が進展してやっぱりこれは中心市である連携中枢都市圏の中の鳥取市が、やっぱり今まで以上に頑張っていけないと思っております。近隣の町村も非常に厳しい状況にあるということは認識をいたしておりますので、この県域で鳥取市だけということではございませんし。

司会進行が喋って申し訳ございませんが私自身そういうふうに頑張っていきたいと思っておりますし、社協の方の町内会からのいろいろ支援ということですけど鳥取市も今、町内会加入率が6割切っておりますね、10年ちょっと前が大体7割ですがそういった状況にありますので、町内会の皆さんから支援いただくという仕組みではなかなかちょっとこれ厳しくなるのではないかなと思っておりますので、またそのあたりも抜本的な対応を含めて考えていかなければならないと思っております。

(中井委員)

藤井委員さんが今言われましたのでちょっと私も希望的意見を言わせていただきたいなと思います。

やっぱり若者に選ばれる鳥取になっていきたいなというふう思います。私の仕事は小売業なんですけれども、やっぱり人口がどんどん減っていくともうそれだけで成り立たなくなる会社っていうのはたくさんあると思っていて、やっぱり人口減少を何とか食い止めていくっていうことに一生懸命頑張っていくといけないのかなっていう中で、やっぱり若者に鳥取を選んでいただくというか、鳥取に残っていただくというか一旦出たとしてもやっぱり鳥取に戻りたいなって思ってもらう、そういうことってどういうことがあるのかなって考えるとやっぱり、鳥取に住んだらこういう未来があるんだなって思えるようなイメージが湧くよう考えを持ってもらうのが大事かなっていうふうに思っています。

そうなりますとやっぱり収入ってすごく大事だと思っています。やっぱり鳥取に残ってこういう仕事に就いたらある程度こういう収入があって、生活がしていけるだろうっていう見通しが立たないと、鳥取に残れない、鳥取に住もうというふうになれないのではないかなと思いますので、そういった雇用の創出というのはすごく大事だと思います。教育とはかけ離れた話かも知りませんが、そういうところがあって初めて若者が鳥取を選ぶっていうことに繋がるんじゃないかなっていうふうにも思います。鳥取は本当に豊かな自然がたくさんありますので、例えば農業ですとかそういうようなところに力を入れて、雇用をつくることも可能かもしれませんし、大企業を誘致することだけではない、雇用の創出についていろいろ検討していただければと思っています。よろしくお願ひします。

(深澤市長)

はい、ありがとうございます。これにつきましてはいかがでしょうか。答えられるところがあればお願いします。

(政策企画課地方創生推進室長)

総合計画の体系の基本政策の中で、「経営基盤の強化と雇用の創造・人材確保」というようなところもございます。そういった中で、やはり若者にとっても魅力ある雇用の創出というところで企業誘致でありますとか、当然地元の企業のさらに付加価値の向上とかそういう取り組みというのはやっぱりしていく必要があるなというふうに考えております。そういったところをこの基本計画の施策の中にも盛り込んでいきたいというふうに考えております。

(深澤市長)

ありがとうございます。その他ご意見等ございましたらお願いします。

(谷口委員)

私もちょっと希望を含めての話をさせていただきたいんですが、普段子どもと保護者に舞台鑑賞を届けている仕事をしておりますので、文化芸術によるまちづくりの推進と

いうところがすごく気になっています。どのようにこの部分を考えておられるのか、どのように推進されていくのかっていうのを伺いたいなと思っています。

(政策企画課地方創生推進室長)

基本計画の中で「文化芸術によるまちづくりの推進」とするところがございますけども、文化芸術活動促進というようなところで、やはり市民の皆さん、それから文化芸術団体の皆さんへの支援でありますとか、それから文化芸術活動の担い手の育成というようなことも盛り込みたいと考えております。それから、文化芸術活動鑑賞機会の充実というところで言いますと、文化芸術に親しむ機会の充実というようなことを盛り込む予定にしております。

(谷口委員)

鑑賞に関してですが、子どものときから舞台芸術を鑑賞していくっていう機会を持った子どもが少ないってことになる、大人になってから舞台を見ようかなっていう思いはその経験がないことには、進んでいかないのかなと思っています。

今、学校の教育現場でも文化芸術を鑑賞するっていう機会がすごく減っているなというふうには感じていまして、学校の何か大きなものが計画されていたとしても、コロナ禍があって、急にキャンセルになったこともありましたし。子どもの時から鳥取市内や鳥取県内地方の方では、子どもが生舞台を鑑賞するという機会というか場所っていうのがとても少ないんじゃないかなと思っています。私達は会員制ではありますが頑張ってチラシを配って一般の人にも来ていただけるようにっていうことでやってるんですけど、やっぱりまだ十分に届けられていないというところで、何かその辺をちょっと鳥取市の方からちょっと補助してもらおうとか、学校公演を増やしてもらおうとか、そういうふうな文化芸術にお金を使っただいて、舞台鑑賞するっていうその経験を持った子どもたちが増えていって、大人になったときにそういうのが雇用にも繋がっていくのではないかなとは思っています。鳥の劇場さんとか他の演劇の団体も頑張っておられるとは思いますが、見るっていうことを知らない子どもが増えるっていうことをすごくその辺も発展に繋がっていかないのではないかなというふうなことを認識できていないのであれば、ちょっとそこが怖いなと思って日々過ごしておりますので、何とか学校現場でそういう機会を持ってもらうような取り組みに繋がっていただけたらと思います。

(深澤市長)

ありがとうございました。学校現場の方でそのような機会を持つようなことはどうなのかというようなことがありました。教育委員会さんの方で何かありますか。

(学校教育課長)

本当に学校現場でもそのような生の舞台でありますとか、音楽でありますとか、伝統芸能に触れる時間って本当に大事ななというふうに思っております。学校の方もいろいろな機会を捉えてそのような劇団さんであるとか、楽団さんであるとかそういう方を呼んで、子どもたちに接するような機会を作るように努力をしております。

やはり一番ネックになってくるのは予算面ですので、そこがクリアできれば学校の方もどんどん活用が進んでいくのかなというふうに思っておりますし、中には無償でいろいろ回ってくださって、提供してくださる団体もありますので、そういうところをどんどん活用しながら、学校でも積極的に引き続き取り入れて子どもたちにそういう機会を作っていきたいなというふうに思っております。

(深澤市長)

はい、ありがとうございます。そのほか、よろしいでしょうか。

(前田委員)

行政の方から見られて、例えば自治会の加入率がだんだん低くなっているというのは、先が読めないこの社会情勢の中で生まれてきた大人社会の問題なのか、それとも比較的若い年齢層の方が関わることが多い問題でもあるとすれば、学校教育でもっとこのような内容のことに力を入れていただければ、今の状況を少しはいい方向に持っていきけるんじゃないかと感じておられることがあれば、ぜひ聞かせていただけたらありがたいなと思っております。

(深澤市長)

ありがとうございます。これはどうでしょう。

(羽場副市長)

今のお話、非常にありがたい話だなと思います。私は賀露の方に住んでいるのですが運動会なんかは町民と子どもたちも一緒にやったりします。そういうことによって町内と学校教育とが一体化したような感じで運動会をやるってということで、そういった取り組みが一つの例ではありますけどもやっぱりそういった形で、子どもの頃から地域に参画していくっていうチャンスを与えることっていうのはとても必要なんだろうなと思います。身近なところで年寄りがおられたり、年齢層の違う若いお兄さんお姉さんがおられたりとかというそういう環境の中でいけば、やっぱりそういった取り組みができると思います。しかし、今おっしゃられたようにマンション生活が多いとか、若い世代になったら結婚したら同居せずに出ていくとかっていうことになると、そこでまた疎遠になるきっかけにもなりうると思います。やっぱり地域に住んで、そのまま地域に残っていればやっぱりその地域が大切になるという思いは出てくると思います。やっぱりそういった学校教育もそうなんだろうけども、やっぱり地域や家庭でそういった取り組みが複合的にやっていくっていうのが必要だな、というふうに私ども思いながら担当課の方もそういった取り組みもやっているところなんですけども、なかなか結果が上手いこと出てこないっていうのもありますんで。ありがとうございます、参考にさせていただいて取り組みを進めていきたいと思っております。

(深澤市長)

はいどうもありがとうございます。

(前田委員)

学校だけで解決できる問題じゃないし、これから話があると思いますけど、コミュニティスクールだとか地域学校協働活動ですとか、ああいったような形に子どもたち児童生徒の時代にどう関わらせてもらってるかっていうことが大きいことなんだろうと思うんですけど、僕の過去の反省も含めてですが、例えば運動会のお話もありましたけど地域の行事にお客さんと呼ばれてですね、そこで出来上がったものにお客さんとして入って行って、地域行事に参加したみたいな形の経験で終わっているというような場合が比較的多いのかなと感じています。

そういうことでは、子どもたちや若者は地域に対して愛着がわかないだろうと思います。そうした問題は学校だけで打破することは無理だろうと思います。学校は今働き方改革でそういった部分を精選せざるを得ない状況がありますし、教科教育や ICT などの新しい要請への対応に追われています。これから話があると思いますが、コミュニティスクールと地域学校協働活動を一つの取り組みとして、学校づくりと地域づくりを進めるような計画をお願いしたいと思います。

(2) 教育振興基本計画目標値の実績について

副教育長（資料に基づき説明する。）

【質疑】

意見・質問なし。

(3) 次期大綱・基本計画の骨子案について

教育総務課（資料に基づき説明する。） -

【質疑】

(藤井委員)

私は教育委員になって今年で10年目でして、普通教室のエアコンとかタブレット端末とかトイレの洋式化も課題にありますけどかなり進んでると思います。またこれから給食センターやさっきの市長さんが言われた体育館のエアコン整備も進んでいくと思っておりまして、非常に進んでると思いますけど、計画の基本方針の「知を開く徳を啓く体を拓く」というのがずっと続いておりまして、不動のものにさせていただけたらなと思っております、次の計画のときも使ってほしいなという要望でございます。

推進政策についてはこれから議論されるので、手が入ると考えておりますので少し具体的な話をさせていただけたらと思いますけど。一つは児童生徒の主体的な学びと学力の向上ところで、勉強が好きか嫌いとかか授業がわかるようになったとかいうのが資料としてあるんですけど最近全国との開きが県として出てまして、鳥取市まだ今年の分の発表はされてないんですけど、とうとう鳥取県が全国平均は全ての科目で下回る結果になったんです。それでいろいろ教育委員会の人と話したんですけど、読んで理解する力が非常に落ちてると。昔調査を始めた頃には国語は比較的良かったんですけど国語も下が

ってきて、考えるところになると白紙の答案が結構多いんだそうです。だから算数で言うと、文章題みたいなものになってくると非常に白紙が多く、それから国語でいうと文章を要約して書きなさいとかね、そういうところになると、非常に力が弱いんだということでした。最初の頃、国語の成績が良かった頃には、朝読書が定着してるんでそれが効果があるんじゃないかというようなことを言ってたんですけど、本当に効果があるかどうかよくわからないんですけどやっぱり何か読書の習慣というのはいま 1 回見直さんといけんのかなということが、思っております。

子どもがゲームしてるのときに見てると、すごく俊敏なこととか、それから素早い反応というのは非常にできるんですけど何かじっくり考えることができなくなっているんじゃないかなというのが非常に気になってて、その辺がもしかしたら繋がってるのかなと思ったりもしております。

それでこの資料の中に学力調査の正答率の推移みたいなのを入れてもいいのかなと。毎年徐々に本当に下がってるんですよ。まあ学力調査が正しいかどうかっていうのは最初始めた頃は議論であったんですけど、ずっとやってると同じ傾向になってくるってことは、かなり信憑性があるんで、やっぱりちょっと危機感がありますよってことを入れてもいいのかなと思っておりますのでそれはちょっと仕様としてご検討いただきたいと思っております。

それからあとは不登校の増加が非常に気になってまして、資料の中でも学校の先生以外と繋がってる割合が低いっていうのは出てますけれど、そのフリースクールをどう考えるかっていうことなんですけど場合によってはフリースクールをある程度認めるような計画っていうか、フリースクールの存在っていうのを少し考えてみる必要があるのかなと。ただ何でもかんでもいいってわけじゃなくて、きちんと教育委員会として、信頼ができるフリースクールということなんですけど。ただ心配なのは、フリースクールに行ったら、そこで気持ちが良くなっても学校には戻れないってことになる、ちょっと嫌だなと思います。やっぱり教育委員会としては学校に戻るということが前提の不登校対策をずっとやってるんで、例えば保健室登校だとかそれから教育センターだとか。フリースクールになると、もしかしたらあまりにも居心地が良くて、どんな運営するかによるんですけどね。例えば、ある程度ゲームをさせてやるようなフリースクールになってしまうと、居心地が良くて、学校に帰ってこれないようなことではいけないんですけど、ちょっとフリースクールとの連携みたいなのをちょっと考えていただけたらなということ、2 点目にあります。

それから 3 つ目にふるさと教育の話ですけど、最初話しました少子化とか非常に大きな課題なんですけれど。結局鳥取市の教育振興計画は、公立の小・中学校を念頭に置いておられるわけなんですけど、もう少し幅を広げて例えば私立の中学校もありますし鳥大附属中学校もありますけど、それから高校への働きかけみたいなふるさと教育についてもあってもいいのかなっていう計画の中に。例えば具体的に書くとしたら県でもふるさと教

育をやっているんで、それと繋がりを強めていくとかいう文言でもいいんですけど、なんかそういうこともいいのかなと思っております。ちょっと工夫が要るのかなと。

それでこれからご存知の、私学の無償化っていう話で高校も私学も無償化相当になっていくということで、私学はやっぱりある程度もしくは施設整備費とかいただくかもわかりませんが、授業料無償化傾向になっていくんですけど。そうすると、私学としても地域にもうちょっと責任持たんといけんなどということで、地域立の学校みたいなイメージで私学も運営していかんといけんのかなと思っております。

この間のしゃんしゃん祭に敬愛高校も3年続けて出ているんですけど今年城北高校も初めて参加されたということで、非常に私学も地域のことに関心を持ってきておられますし、鳥取市の教育振興計画ではあるんですがもうちょっと私学とか高校にも働きかけるといふか、連携施設みたいな記述があってもいいのかなと思っております。

それで計画と少し離れますけど、今の小中連携とか義務教育学校とか鳥取市は非常に力を入れているんですけど、私立の中学校は既にあるからまた新設されるということになると、少しその生徒募集に対して鳥取市のやっている小中連携とか義務教育学校のあり方に対して、私学の方もやっぱり配慮していただく必要があるのかなと。私学は私学で経営があるでしょうけど、配慮していただく必要があるのかなと。例えば義務教育学校なんて9年制の学校ですよ。7年生がいなくなったりするのも学校としてちょっとつらいなということがありますんで、難しいんですけど気にはなります。

それからあと、文化の話で非常に文化財のことは書かれてるんですけど多分市長部局の仕事だから抱えていないという位置付けになるかもわかりませんが、駅周辺や文化施設の再整備計画もありますけど、子どもの情操教育とかこういう場として非常に大切なものでありますんで、市の総合計画にも当然書かれると思いますけど、教育振興計画にもその辺触れていただけたらなと思っております。というのは例えば、やっぱりちょっと中の役割分担もあるんでしょうけど教育を取り巻く社会情勢で、それはわかりやすく何か書いてあるので最終的にはこれ取られると思うんですけどやっぱり地域の歴史文化財産の保存と活用ということで、14番ですね。これなんかやっぱり文化財ということに限定されてるんで、もうちょっと何か場所を設けていただけたらなと思っております。以上です。

(深澤市長)

はい、ありがとうございます。大きく4点についてですね、ご意見いただきましたけれども、事務局の方でそれぞれお答えといいますか、お話いただけるようなことがあればお願いしたいと思います。

(学校教育課長)

全国学力学習状況調査のことを一つ目にいただいたと思います。全国との開きが大きくなっているというところですが、今年度の結果についてはまた次の定例教育委員会でお話をさせていただきたいというふうに思っているところですけども、やはり鳥取市

もそこは大きな課題だなというふうに思っております。指標の中に学力調査の正答率の推移をとということをおいただきましたので、それについてはやはり学力の一つの大事な指標だというふうに思いますし、今求められている力を全国的に測るといふ、そういうような問題が提供されている調査だというふうに認識しておりますので、そういうものを仕様として入れていくことも検討していきたいというふうに思っております。

それからふるさと教育について、私立であるとか国立あるいは県立学校にも働きかけがあってもよいのではということもいただきました。これについても、検討していきたいなというふうに思っております。やはり特に鳥取市立、公立の学校は地域の協力あつての学校だというふうに思っております。地域に開かれた学校って言っていたものが今、地域とともにある学校がキーワードになっていますので、やはり一緒になって地域と学校づくりをやっていく、ふるさと教育を進めていくということが必要だと思います。それが公立だけではなくて他の校種とも一緒になってということが大事だと思いますので、その辺りもまた検討していきたいというふうに思っております。

それから小中義務教育学校等の生徒募集のことについては、これはまた私立学校と話をする時にいろいろと情報共有しながら対応を考えていきたいというふうに思っております。

(総合教育センター所長)

不登校については年々数字がこれも上がっている状況でして、危惧するところではあります。しかし一方ですね、昨今確定した教育機会確保法という法律ができました。これは学校以外の場所で多様な学びをする子、不登校の子どもたちに対する支援をどうしていくかという法律でございます。要は簡単に言えば今までは学校に行かないなんてなんでだろう、けしからんっていう世の中から、学校でなくても学校に行けない子も応援しますよという法律に変わったわけです。つまり、私達は不登校の子がどこでどんな学びをしているか、あるいはどこに繋がっているか、テーマは繋がるということに関して、学校に問うておるところです。一番何と申しますか、危惧しているのは、家に居て学校にも行ってなくて、どこにも繋がってない子です。ここにどんな支援をするかっていうことを、非常に一生懸命やっけていこうとしているところでございます。

昨年ある小学校で、どこにも繋がってない子がいたんですが、校内サポート教室というのを、相談室でもない支援学級でもない教室、そこを小学校に作りましたところ、去年全く来れなかった子がそこで今、毎日来て自分の学びを進めているという事例がありますので、いいことを進め拡充してと考えております。簡単に言えばどこにも繋がってない子にどんな支援をしていくかっていうことを検討していきたいと思つてるところです。以上です。

(文化財課長)

文化財に絡めての部分ですが、民俗芸能等に関しては未指定のもの等を文化交流課さんや企画推進部の方が担当されてるという形で役割分担をしておりますけれども、当然

実際には学校の方の麒麟獅子舞の普及ですとかそういうことにも取り組まれているので、業務的にこちらで取り扱ってないので書かれてないということに過ぎませんのでそのあたりちょっと書き方等工夫させていただいてというふうに考えております。また文化施設等については、生涯学習の方の枠で考えておられると思いますのでそういうところになってくるのかなというふうに思います。

(藤井委員)

お話し合いしていただきたいんですけど、ちょっと守備範囲を広げて、せっかく文化施設を作られるのにそれが子どもたちの教育にも役立つものなんで、多分ちょっと振興計画にわかりやすく書かれてもいいのかなと思っています。教育振興計画を読んだときに、何かそういった文化施設の整備が関係ないみたいに思われるのもちょっとどうかなと思うんで、書き方があると思いますけどよろしくをお願いします。

それから、フリースクールのお話をどうするかっていうのをちょっと議論していただいた方がいいのかなと。フリースクールに行くことをすすめてるわけではないんですけど現実を見据えて、何も記述がないのもどうかなと思っていますのでご検討いただければと思います。

(総合教育センター所長)

現在県と協議して、県が認可しているとかいう認めているとか、あるいは鳥取市もそこに合わせて鳥取市としてきちっとフリースクールとして認めますねって言っているスクールが5つございます。

そのことに関しましてそこに通ってる子は非常にたくさんおまして、出席を認めておるところでございます。私も昨年まで学校におりましたので、どんな子がおりましてかかっていうと、フリースクールに3日通って2日は学校に行きますねっていう子もいますし、午前中はフリースクールによりますけど、給食から学校に行きますねとかいう子もいますし全くもって学校には来ないけどフリースクールみたいに来てますっていう子もいますし、非常にフリースクールは大きく活用しておるところです。

ご指摘の通りフリースクールをどう支援に組み込んでいくかということは、基本計画の中には、もしかしたら盛り込んでいけるのかなというところは感じておるところです。

(深澤市長)

ありがとうございます。あと文化施設の方の計画にも少し書かれ、書いてもいいんじゃないかな、書きぶりをということでこれはまた検討させていただくということでよろしゅうございますでしょうか。

その他ご意見等ございましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(前田委員)

2点お願いします。1つはふるさとを思い志を持つという、この流れは継続されるということで嬉しく思っています。国の方では、第3期には志という表現があったのが、第4期ではなくなったのですが、鳥取市はずっと貫かれるという判断で、大変嬉しく思っ

おります。

もう1点は、知を開く徳を啓く体を拓くに関わる取り組みについてです。今学校現場ではOJTが研修の中心になっていると思います。これも働き方改革が関係することだと思うのですが、やはり指定校制度が充実されることを期待しています。

例えば、道徳教育の文科省の指定校になると、学校は文科省の教科調査官を何度も招いて学校をあげて研究実践に取り組み研究発表会などを行っていました。その学校の研究指定が終わると、学校の中に道徳教育のスペシャリスト、素晴らしい実践ができる先生が何人も生まれ、異動で他の学校に行きそこで広めてくださっていました。道徳教育に限らず、知を開く・徳を啓く・体を拓くことに関わる学校指定を予算的な措置もつけて行っていただきたいと思っています。

OJTだけでは、例えば鳥取市で算数数学はあの先生、国語はあの先生、総合学習だったらあの先生という状況にはならないだろうと思っています。

(学校教育課長)

前田委員さんが言われるのは、本当にその通りだなというふうに思っております。私の経験からも、道徳の全国大会を経験してそこでの学びは非常に大きかったです。前田委員さんにも大変お世話になって、本当にこの学びを得て、それがやはりいろんなところに広がって行って、教員のその後のキャリアの財産になるっていうことは体感としても感じているところです。鳥取市の教育委員会としましても市が力を入れたい施策については、そのような指定校推薦的な先ほど言っていました人事力の育成事業でありますとかそれから今回の教育振興基本計画に盛り込もうとしています。

探究的な学びなども指定校推薦的に予算をつけて、学校を決めてその取り組み中心に取り組んでいただくという制度を作っております。今後もどのような分野で学校のニーズに応じてこういうような予算をつけて検討を進めてもらえるのかっていうことをちょっと見ながら、この取り組みを広げていきたいなというふうに思っておりますし、先ほど言っていました県の方も同じように、例えば国語であるとか算数数学でありますとかICTでありますとか、今年度は自由進度学習に取り組む学校に予算をつけて研究指定をかけるというようなこともあります。それから、県外からスーパーバイザーを招いて授業研究を行うというような制度もありますので、県との住み分けといいますか、そういうところも見ながら学校に活用していただけるような取り組みというのはまた考えていきたいというふうに思っているところです。やっぱりこの研究の部分というのは本当に大事だと思いますので、これが衰退しないように力を入れていけるように、次も盛り込んでいきたいなというふうに考えております。

(中井委員)

学力ですとか経験値ってということに対して、家庭の経済的な格差ってというのがすごく広がって行って今後ますますそういうことが広がっていくんじゃないかなっていうことを危惧しています。家族で旅行に行ったり美味しいものを食べたり楽しいことができる

おうちがどんどんして、子どもの経験値が上がって行くんですけどもそういうことができないうちの子どもたちにどういう経験をさせてあげられるのかなっていうところがやっぱり市が公共の場で手をかけてやらないといけない部分なのかなというふうに思っています。

それを学校に求めるっていうのはなかなかちょっと難しいんじゃないかなとは思いますが。本当にそれこそ働き方改革っていうことも関係してくると思うんですけども、やっぱり先生があまりにもいろんなことを求められても、今度は学力が低下していくっていうことでやっぱり意味がないなっていうふうに思いますので、先生というのが教科に特化していただくような形で子どもの学力とか教科を一生懸命やる。やっぱそれ以外に子どもが本当に楽しめるようなことだったり体験をさせることだったり、運動させることだったりっていうところに関してはまた、違う方がつけるような、そういう体制っていうのがあるんじゃないかなというふうにちょっと考えてます。ですので、あまりにも先生にいろんなことを、学校現場だけに任せていくっていうのはちょっと難しいと思いますので、そういったようなところを本当に子どもが「鳥取ってこんな綺麗なところがあるんだ」とか「鳥取の食べ物ってこんなに美味しいんだ」とか「本当に鳥取楽しいな」って思うような、そういう鳥取に生まれた子どもにそういう経験をさせるっていうことが将来的にやっぱり鳥取のこの郷土愛に繋がって、鳥取に根差した大人になっていくのかなっていうことを考えると、そういう場を家庭の経済的な格差によって、体験がたくさんできる子と本当になかなかそういう体験ができずに大きくなってしまった子とでは郷土愛にも差が出てくるのではないかなというふうに思うのでそういうところを市の方で、手を差し伸べてもらうというか力を入れていただけるといいのかなというふうに思っています。よろしくをお願いします。

何か例えば、鳥取の子どもたちがみんなで参加できるような楽しいキャンプとか、海に行くとかやっぱり鳥取の海ってものすごい綺麗なので、そういう山に登るですとか何か学校単位じゃなくてできるようなことって、すごく子どもの心に残るんじゃないかなと思っているのでそういうようなことも何か、大人向けイベントばかりじゃなくて子どもが安いお金で体験できるとかそういうようなことがあると、やっぱり鳥取楽しいなんて鳥取綺麗だなっていうふうに思ってもらいたいなっていうこともあるので、学校現場だけではなくてそういう大きな学校単位じゃないようなこともあるといいなと思います。子どもだけのイベントっていうのってないと思うんですよね。なのでそういうようなこともあるといいのかなと思っています、企画していただければいいかなと。

(深澤市長)

ありがとうございます。やってみよう！でー（day）等の期間中もいろんな子どもたちを対象としたイベントも数多く行っておりまして、たくさん参加していただいているという状況もありますので。この問題は教育委員会だけでは難しいと思いますので、また市長部局と併せてそのような機会、経済的な格差によってそういう機会がなかなか無い、そ

ういった児童生徒もいらっしゃるといようなことをどう補っていくのかという課題だと思いますので、また教育委員会、市長部局でしっかり連携しながらそのような機会を創出したり、あるいはそういった子どもたちに鳥取っていいんだなとそういうふうを感じていただけるような取り組みをやったりしていきたいと思いますので、よろしく願いしたいと思います。

(藤井委員)

教育振興計画に載せるかどうかって話ではないんですけど教職員の多忙化の解消の話で、ある小学校で午前中に5時限をして帰り時間が早くなったとかありますし、そういう地域の実情を踏まえてやることで、多分学校の主体性に任せられる部分があると思うんですけど。学校の下校時間を今より早めに設定するとか工夫されてるところもありますんでそういったことを教育委員会としても広げていくというか、いい例は紹介していただくようなことをお願いしたいのと、それからこれ本当の要望みたいなもんでありますけど、今鳥取城跡の整備あるいは仁風閣再生をなさっておられて、城跡の整備で橋ができたり門ができたり非常にいい環境なんですけど、例えばスーパーはくとで大阪に向けて走ってるときに、明石城の小さな櫓が見えるんですよ。天守閣はもちろんですけど櫓が見えて、ああお城なんだなと思うんで、できたらちょっと二ノ丸櫓のところを早めに作っていただくという気持ちを込めて計画に二ノ丸櫓の完成予想図でも載しといてもらえたら、非常に目を引いてみんなが期待するんじゃないかなと思います。5年の間にできるとは思えませんが、その先を見据えて完成予想図みたいなものをどんなものでしょうか。きっと佐々木課長が答えられると思うんですけど。

(文化財課長)

今年からちょっと地盤調査とかの方を二ノ丸についてもさせていただきまして、実現に向けての準備を進めていくというところなんですけど、復元図自体はご存知とおりに戦前から書かれてまして写真があるので図面としては存在するんですけども、ただちょっと我々が研究して作ったってということでもないんでやはりちょっともう少し調査進んでこないとなかなか形にはなかなかならないのかなというふうに思っております。自信を持ってお出しできる段階になれば、そういう対応となるように考えておりました。

(深澤市長)

あとそれから教職員の多忙化の解消で横展開のようなこともやってもいいんじゃないかっていうのはいかがでしょうか。

(学校教育課長)

教職員の多忙化解消ということは次の教育振興基本計画でも大事な一つの柱になるかなというふうに思っております。お話いただきました下校時刻の繰り上げについては現在の働き方改革の基本方針の中でも全市共通の取り組みとして、どの学校も前向きに実践しているところですのでこれをさらに進めていきたいのとあわせて、好事例についても、下校時刻の繰り上げだけではなくて他でも成果を上げている取り組みは各学校から

聞き取りをしてそれを集約してまた各学校に広げるといことも今やっております。今後もさらに効果のある取り組みというのを今いろいろ研究してるところですので、そういう取り組みを広げていけるように、引き続きやっていきたいなというふうに思っております。

(中井委員)

今、三階櫓のお話が出ましたので付け加えたいことがあるんですけども、来年の7月に鳥取商工会議所の女性会が主催して、女性会の中国大会を鳥取で開催します。

300人ぐらい中国地方から女性会の方々に来ていただく大会で、翌日のエキスカーションで私が担当してそのコースを考えているんですけども、城跡で仁風閣の工事現場やバックヤード見ていただいて、そこからちょっと周辺のお話をして、夜のライトアップも見てもらおうかなと思っています。ここがどういう場所で、5年後こうなりますので5年後まで来てくださってということをお願いしたいという思いがあります。

なのでやっぱり、いつとは言えないかもしれませんが、三階櫓ができたらかここがこういう場所になって、また、出来上がったときは必ず来てくださいなねっていうようなPRもしたいなというふうに思っているんで、ちょっと気が早いですが機運を醸成していかないといけないなと私達も思っています。それにはすごく教育の力が大事だと思うんですけども、やっぱり城跡がどういう場所で、そこに三階櫓が建つってどういうことなのか、子どもたちにも教えてもらえたらなと思います。

子どもたちが大きくなる頃にできるのかもわかりませんし、そういうようなビジョンを描けるような事業なり、何かお話というのは学校現場でもしていただいた方が、鳥取市みんなの機運の高まりに繋がるのではないかなと思いますのでぜひよろしくお願いしたいと思います。

(深澤市長)

はい、ありがとうございます。

(学校教育課長)

本当に故郷のご自慢というか、そういう歴史あるものを学ぶことは大事だと思っております。

鳥取城もそうですし、例えば鹿野なら鹿野城のお話もあると思いますし、いろいろ地域によってそういう史跡とか、故郷の自慢というのがあると思います。やはり先ほども出たふるさと教育の大事な一つだと思いますので、そういうことを学べる機会を作っていきたいなというふうに思っております。

1つのことを全市でというのは、以前もお話したようになかなか難しいところですけども、そういうことも含めて鳥取市を思う、故郷を思う子を育てるといのはどういうふうにしていったらいいのかなということは、この基本計画の作成と併せて具体的なことも考えていきたいと思っております。

ありがとうございます。

(文化財課長)

こども考古学教室という事業を私どもの方でもしております、これは市内のほぼ全校行かせていただいておりますけれども、郷土のこの話も座学としてさせていただいて、それから実習するという流れになってますので、そういうところでもう少し鳥取城の話とか鹿野城の話ですとか、浅見次長が言われたようなことにも対応していきたいというふうに考えております。

(深澤市長)

どうもありがとうございました。

よろしゅうございますでしょうか。その他ご意見等いただければと思いますがいかがでしょうか。

(谷口委員)

本当に希望になるんですが、例えば小学生の遠足で6年間砂丘に行くとして、砂丘に行く、行き帰り歩く、その体力を養うことも大事だとは思いますが、砂丘に行って何をするか。子どもが、大きくなったときに、砂丘って砂しかないよね、というような発言をしてくるんです。そんなことない、今はいろいろアクティビティとかもあるし、ということ言うんですけど、やっぱり子どもの体験としては、砂丘に行って、熱い砂の上をちょっと歩いたということだけが残っています。

そういう記憶も大事だとは思いますが、ふるさと教育、または観光の方に観光名所の案内をするときに、砂丘に行ったら砂しかありませんというのではなくて、何か体験として付加価値があったら良いと思います。砂丘だけではなく、例えば県立美術館ができました。そこに行ったら、美術を見るだけではなく、こういう体験もできますというようなことが遠足の中に組み込まれたりしていれば、何となく鳥取って何もないよねっていうところから、砂丘に行ったら馬の背にも登れるし、他にもこういう遊びがあるとかということがわかるとおもいます。

どこどこに行ったら、それを見るだけではない、学年ごと、成長の過程で、ちょっと違う体験ができていいのかなっていうふうには思いました。

鳥取で生まれ育っていると、鳥取の良さがなかなかわかりづらいところがあります。

私も大人になって、子どもを持ってから、転勤でこられたお母さんとかに鳥取いいよねって言われて。どこが、鳥取何もないよっていう話から、鳥取は海も山も近いし、すごくコンパクトシティで本当に身近なところにギュッといろんなものが詰まっていますごくいい、子育てするにはすごくいい環境だと県外から来たお母さんに言われて気が付きました。

それを子どもに伝えようと思っても、小学校で遠足に行く。今はもう暑くなってきて遠足も行けるのか行けないのかわからないんですが、行った先で、何か体験、体験が異年齢交流、学年ごと、全体で遊ぶとか、それも大事だとは思いますが、この体験として、文化に触れるみたいなのをひとつ入れていただけたら。子どもたちにいろんなところに

行って、いろいろ体験できるみたいな経験を積ませてあげたいなと思っていますので。すいません、大綱と関係ないですが。

ただ保護者の希望として、故郷を思う気持ちを育てるっていう面では、いろいろ子どもにいいところがたくさんあるよっていうのを知ってもらいたいなと思っています。

(深澤市長)

はいありがとうございます。

これにつきましては、どなたに答えていただいたらいいでしょうか？浅見次長さんからお願いします。

(学校教育課長)

はい先ほどのお話とも結びつくかもしれないですけども、やはり子どもたちに地域の自然を学ばせたり、良さに触れさせたりって本当に大事なことだと思っています。

先ほど遠足のお話もありましたけれども、遠足もやはり目的を持って行って、どちらかという年度当初に行っている活動なので仲間づくりみたいところが多いので、どうしても砂丘に行って砂丘のことを学ぶとかっていうところまでは及んでいないという現状があるかなというふうに思ってます。

例えばそれを補うために社会見学であるとか、校外学習で地域を学ぶということ、あるいは総合的な学習で地域に出かけて行って、地元の方にお話を聞いたりというようなことで、そういうような体験であるとか、付加価値をつけたような取り組みというのを行っているというのが現状です。

山陰海岸ジオパークの学びのための補助があり、それを活用して学校が行くということもありますので、そういうような機会を捉えながら、やはり先ほどの鳥取城と結びつきますけども鳥取の魅力であるとか、素晴らしいところっていうのはたくさん触れさせたいなというふうに思っています。バス代が高くなっているのが問題です。

(総合教育センター所長)

付け加えですけど、私のおりました学校では、集団宿泊の行事っていうんですけど、先ほどあったように、4月の遠足は仲間づくりがメインになりますけども、例えば4年生であれば砂丘にあります乾燥地研究センターに行ったり、4年生で砂丘の勉強をさせて検定試験を受けさせていました。というふうに狙いがやはり違いますので、社会見学でそれを補っている学校が多くございます。

ただ、言われたように、せっかく遠足で行った先で、その文化のちょっと何か触れるっていうところは考えられることなので、大事なことだと思ってご意見をいただきました。ありがとうございます。

(深澤市長)

はい。よろしゅうございますでしょうか。はいその他ございましたら、河井教育長さん。

(河井教育長)

教育長河井でございます。最初に教育長の立場でということで、各委員さん今日はいろ

いろいろ意見ありがとうございました。

市長がまとめの挨拶で言われるかもしれませんが今後の計画の中に取り入れていくものは取り入れていきたいというふうに思っております。

ここからは、一教育委員としてのちょっとお尋ねというかお願いです。委員さんの方からお話もあった教員の多忙化解消の中での例えば体験活動であるとか、運動であるとか、そういう部分は教員以外でもできる体制も大切だなというようなお話もありました。これはまさに今、教育委員会必然の課題を中学校部活動の地域移行なり地域展開というところが、これについては今のところは、今の表現の中にはないとは思いますが、今後計画を具体的に作る中で表現されると思いますが、その辺も一つよろしくお願ひしたいなというのが1点目のお願いです。

そして2点目の方はふるさと教育といいますか、郷土愛の醸成という部分で、前田委員さん言われました自治会の加入率の減のようなところの話の中で、小学生中学生地域の活動に出るんだけど、お客さんみたいな感じで参加だということではまさに私も思っております、やはりここが学校というよりも地域なりそして社会教育部分になると思うんですけども、中学生、小学生も運営をする主体というか、ともにやっていくというようなところが、子どもたちのいろんな経験をさせる中で、郷土愛を醸成するというようなところも一つのポイントかなというふうに思っています。やっぱり地域によってはそういうことを実践をしておられる地域もありますので、そういうところの横展開であるとか、そういうような表記もしてもらいたいかなというふうに思っています。

以上です。

(深澤市長)

はい、ありがとうございました。

特にこれはお答えは。その他よろしゅうございますか。そういたしますと、これで議題の方は、終了しまして、4のその他に行っていただきたいと思ひます。

(教育総務課長補佐)

今後の日程についてご案内させていただきます。資料の2の中で既に山名次長の方からご案内させていただきましたけども、今年度総合教育会議を3回お願ひしたいと考えております。

10月に2回目の総合教育会議にて、素案を、また来年1月には最終案をご審議いただきたいと考えております。

また日程調整をご案内いたしますのでよろしくお願ひいたします。

以上です。

(深澤市長)

はい、ありがとうございます。今年度は3回予定をさせていただいてということですので、委員の皆様におかれましては大変ご多忙中ではありますけれども、よろしくお願ひをしたいと思います。

それでは以上をもちまして本日の議題は全て終了いたしました。円滑な議事進行等ご協力いただきまして本当に感謝申し上げます。

それでは以降の進行等につきましては事務局の方でお願いしたいと思いますので、徳高副教育長さんの方でお願いします。

(副教育長)

はいご協議ありがとうございました。

本日の会議につきましては速やかに議事録を作成しまして、鳥取市の公式ホームページに掲示いたしますので、よろしくお願いたします。

これをもちまして、総合教育会議を閉会させていただきます。

皆様、どうもありがとうございました。

閉会 11時40分